

# 第1回 SPARC Japan セミナー2017

「図書館員と研究者の新たな関係:研究データの管理と流通から考える」

## 研究データ利活用協議会 (RDUF) 紹介

武田 英明

(国立情報学研究所/研究データ利活用協議会)

### 講演要旨



研究データ利活用協議会 (RDUF) は国内の研究データの共有や公開に関わる関係者の集まる場として、ジャパンリンクセンター (JaLC) を母体に発足したものである。ここでは、本協議会の活動の紹介と新たな取り組みである小委員会制度の説明を行う。小委員会は個別トピックスの議論の場として用意したもので、現在、企画を募集中である。



武田 英明

[http://www.nii.ac.jp/faculty/informatics/takeda\\_hideaki/](http://www.nii.ac.jp/faculty/informatics/takeda_hideaki/)

今回の SPARC Japan セミナーは、研究データ利活用協議会 (RDUF) が共催させていただいているので、RDUF の PR の時間を設けていただきました。RDUF の会長という立場でお話しします。

許可を受けた組織が、実際に DOI の登録などの作業をしています。その最大手が CrossRef です。IDF の立場から見ると CrossRef も一つの RA で、ジャパンリンクセンターも一つの RA です。ジャパンリンクセンターが 2012 年に設立されて、国内で DOI を付与する業務を行っています。

### 研究データ利活用協議会 (RDUF) の概要

RDUF は、研究データ利活用に関する国内外の事例の共有などにより、わが国における研究データ利活用を推進することに寄与することを目的とした任意の組織です (図 1)。

設立のきっかけは、ジャパンリンクセンターが行った、研究データに DOI を付与する実験プロジェクトです。その前に、DOI の仕組みについて説明します。DOI の胴元は International DOI Foundation (IDF) ですが、IDF は DOI のデータベースの管理のみ所管して、それ以外は IDF から Registration Agency (RA) として



(図 1)

ジャパンリンクセンターとは、国立情報学研究所 (NII)、科学技術振興機構 (JST)、国立研究開発法人物質・材料研究機構 (NIMS)、国立国会図書館 (NDL) という四つの機関が共同で運営する形で設立されたものですが、実際の事務局およびシステムの運用等は JST が担っているという仕組みで運営されている組織です。正確にいうと、ジャパンリンクセンターは独立した組織ではなく、あくまでもプロジェクトという立ち位置です。ちなみに CrossRef は NPO 団体です。片岡さんの JPCOAR スキーマの話で出てきた DataCite も、DOI の RA の一つです。

ジャパンリンクセンターは、今までは主に国内の論文に DOI を付与してきましたが、公開したい研究データに DOI を付ける、「研究データへの DOI 登録実験プロジェクト」を 2014 年 10 月から行い、データに DOI を付けたい人は一体どこにいるのか、そもそも公開するデータを持っている機関はどこなのかということを手探りで調べました。そうすると、幾つかの機関が集まりましたが、このプロジェクトは 1 年間で終

わりました。もう少しこのコミュニティを発展させたいということで 2016 年 6 月に始まったのがこの研究データ利活用協議会 (RDUF) です。「協議会」という名前が付いていますが、これはジャパンリンクセンターの特別部会で、ジャパンリンクセンターの一活動という位置付けです。

ただ、本体のジャパンリンクセンターとの関連はそれほど深くなく、むしろオープンにいろいろな人に入ってもらいたいと考えています。現在は機関参加として、ジャパンリンクセンターの共同運営機関である NII、JST、NIMS、NDL に加えて、情報通信研究機構 (NICT)、千葉大学のアカデミック・リンク・センターに参加いただいております、産業技術総合研究所 (AIST) にも参加いただく話を進めつつある状況です。あとは個人参加で興味を持つ方は誰でも入れます。

RDUF は設立から 1 年少したちました。実施内容は、勉強会や研究会、メーリングリストを介した意見交換、報告会です。参加者は、研究者はもちろん、研究機関の担当者、大学の図書館等の関係者といった研究データ公開に関わる多様なステークホルダーを想定しています。

入会形態は、機関参加もしくは個人参加で、入りたい人は入ってくださいという形ですが、機関参加はむしろ企画側に回り、研究会などを企画するという立場です (図 2)。個人参加者はメーリングリストに入ります (図 3)。

### 「研究データ利活用協議会」のメンバーシップ

会費:	無料 (活動に伴う交通費等は、自己負担。)
入会形態:	「機関参加」もしくは「個人参加」
入会の要件:	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「機関参加」の場合                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 持ち回りで「研究会」や「報告会」の企画、運営をできる。</li> <li>・ 「研究データ利活用協議会」の会員である旨を公表することに同意する。</li> </ul> </li> <li>■ 「個人参加」の場合                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究データの利活用に興味があること。</li> </ul> </li> </ul>

入会すると、メーリングリストを介して様々な情報を得ることができます。

(図 2)

### 会員一覧 (平成29年9月1日時点)

<p><b>【機関参加】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 科学技術振興機構</li> <li>・ 物質・材料研究機構</li> <li>・ 国立情報学研究所</li> <li>・ 国立国会図書館</li> <li>・ 情報通信研究機構</li> <li>・ 千葉大学附属図書館/ アカデミック・リンク・センター</li> </ul>	<p><b>【個人参加】</b> 43人</p> <p>会員リストは、以下で公開中！ <a href="http://japanlinkcenter.org/rduf/doc/JaLC_rduf_member.pdf">http://japanlinkcenter.org/rduf/doc/JaLC_rduf_member.pdf</a></p>
---	--

(図 3)

### 平成28年度の活動実績

項番	活動	開催日時	担当
1	公開キックオフミーティング	7月25日 (月) 14:00-17:00	JST
2	研究会 (第1回) (RDA Plenary 8 Meeting 等参加報告)	10月3日 (月) 14:00-17:30	NDL
3	研究会 (第2回) (第2回 SPARC Japan セミナー 2016 との共催)	10月26日 (水) 13:00-17:00	NII
4	公開シンポジウム (サイエンスアゴラ内) 「研究データの利活用の未来—オープンサイエンスの実現手帳—」	11月4日 (金) 13:30-15:00	JST
5	(「第1回 CODH セミナー Big Data and Digital Humanities」後援)	1月23日 (月)	NII
6	研究会 (第3回) 「科学データ研究会・WDS 国内シンポジウム (第5回)」との共催	3月9日 (木) 10日 (金)	NICT

(図 4)

## RDUFの活動実績

RDUFは今まで図4のような活動を行ってきました。第2回研究会として、昨年度もSPARC Japanセミナーを共催しました。大きな活動としては、Research Data Alliance (RDA)の参加報告会があります。RDAのような世界の活動への日本からの参加をうまく盛り上げたいというのが、設立のもう一つの動機でした。公開シンポジウムも行いました。

今年は11月6日に、国会図書館に企画していただき、場所もお借りして第1回の研究会を行います(図5)。これはRDAの第10回報告会やiPRES報告会なども兼ねていて、みんなで情報共有しようという企画です。

## 小委員会の設置

また、今年から小委員会をつくってみようと考えました。全体の研究会以外に、有志が集まった小委員会で、あるテーマにもっとフォーカスして、1年ぐらいかけて議論するのです(図6)。

標準をつくるという高い目標を掲げていただいてもいいし、単に提言あるいは基礎資料をまずつくろうということでも構いませんが、とにかく1年ぐらいかけて成果を出してもらいたいと考えています(図7)。

提案書のフォーマットもつくり、検討テーマを9月29日まで募集しているの、やりたいという意味を表示していただきたいと思います(図8)。今のところ「研究データ・マネジメント・プランについて一緒に考えましょう」という提案が既に出ています。

オープンアクセスリポジトリ推進協会(JPCOAR)にも小委員会のようなところがあるのですが、それはやや会員制で、図書館系のメンバーが比較的多いです。それに対して、RDUFの小委員会はオープンなので、もっと広いオーディエンスで、あるテーマに絞って議論したいのであれば、この小委員会制度を使っていたらいいと思います。JPCOARの活動とオーバーラップさせても構いませんし、SPARC Japanの活動とオーバーラップさせても構いません。何せ任意の組織なので、そのあたりは自由に考えます。

**平成29年度の活動**  
**① 公開イベントや、研究会の開催**

- RDUF公開シンポジウム  
 ～オープンサイエンスを巡る世界の最新動向～  
 【日時】 2017年6月26日(月) 13:00～17:00 <開催済み>  
 【会場】 JST東京本部別館 1階ホール  
 【参加者数】 174名  
 研究データ利活用に関する世界の最新動向を紹介するとともに、参加者によるグループディスカッションにより小委員会設置のための課題の棚卸しを行った。
- 第1回 SPARC Japan セミナー2017  
 研究データ利活用協議会が共催し、本日開催。
- 第1回 研究会 (RDA 10th Plenary, iPRES報告会) (11/6)@NDL

(図5)

- **小委員会タイプ**  
 →以下のタイプから選択することができる  
 ① 関係者間で利用可能な提言・標準等の作成を目指す。  
 ② 提言・標準等をつくるための基礎資料等の作成を目指す。  
 ③ ステークホルダーを集めて、課題解決に向けて対策等を話し合う。
- **成果物**  
 次のいずれかを作成  
 ・研究データの利活用を図るために必要となる方針、指針、基準、標準、提言、調査報告など  
 ・その他、小委員会の活動内容をまとめたもの
- **存続期間**  
 ・原則、1年間

(図7)

**平成29年度の活動**  
**② 小委員会の設置**

- **設置の目的**
  - ・共通するテーマをもった有志が課題解決に向けて意見交換
  - ・その成果を指針やガイドラインの形で世の中に提言
- **構成**
  - ・委員長(必須)、副委員長(任意)、委員
- **活動内容**
  - ・グループ討議、全体討議、外部発表 等

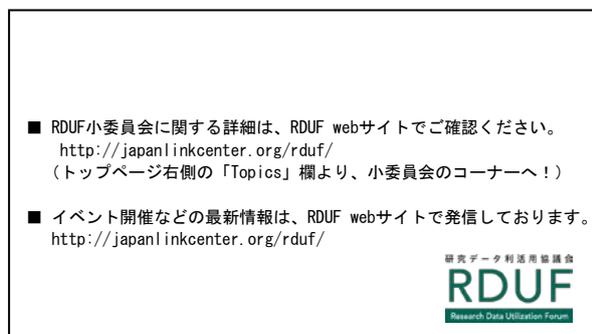
(図6)

- **検討テーマ**  
 →みなさまの提案から採択されます!  
 ・提案書はとってもシンプル!  
 (A4で、1～2枚程度です。)  
 ・平成29年9月29日まで受付中!
- **スケジュール**
  - ・10月上旬: 運営委員会による提案審査  
 →審査結果の通知
  - ・10月中旬: 委員募集
  - ・10月中旬: 活動開始

提案書の様式

(図8)

「委員会」という堅苦しい名前を付けたのは、その方が所属組織などに説明しやすいだろうというぐらいの意味で付けたもので、実際は自由に活動してもらいたいと思っています。もっと深い議論をしたい方には、ぜひこの協議会を活用していただければ幸いです（図9）。



(図9)